

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2172600559		
法人名	株式会社 ナックス		
事業所名	グループホーム めくもりの家		
所在地	岐阜県揖斐郡大野町大字稲富712-1		
自己評価作成日	令和7年10月15日	評価結果市町村受理日	令和8年1月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/21/index_nhp?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JiyosyoCd=2172600559-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと		
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル		
訪問調査日	令和7年11月10日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>庭には四季折々の花が咲き、自然を楽しめる暮らしができるよう憩いの場所となっています。また、畑があり、季節の野菜を育て、収穫を楽しんでいただいています。認知症である利用者様が、笑顔で穏やかに生活できるよう個別ケアを行っており、生活習慣、趣味趣向を大切に支援しています。医療機関とも連携をとり、利用者様の健康を支え、看取りケアまで対応しています。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>事業所は、田畑に囲まれた静かな環境にある。庭には季節の花木や畑もある。利用者は、庭の散歩をしたり、季節の果実や野菜の収穫を楽しみながら日々の暮らしを楽しんでいる。法人運営の5つの事業所が協働し、質の高い支援の維持に取り組んでいる。また、利用者一人ひとりの権利を尊重し、心身ともに健やかな生活を支援することを理念とし、自立度が高い時期から看取り期まで、細やかな個別ケアにも取り組んでいる。管理者は就業条件や職場環境の整備、経験値や意向に応じた研修受講や資格取得のサポート等、教育を充実させおり、職員はワーク・ライフ・バランスを保ちながら安定して仕事を継続できている。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
43 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:15)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	50 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:8,9)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
44 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:14,27)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	51 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
45 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:27)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	52 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:3)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
46 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:25,26)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	53 職員は、活き活きと働いている (参考項目:10,11)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
47 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:36)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	54 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
48 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:20)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	55 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない
49 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:18)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎月行っている全体会議やミーティングで運営理念の確認や、利用者様が安心して生活していただけるよう話し合い、統一したケアを行うようにしている。運営理念は、常に確認できるよう名札の裏や施設内に掲示している。	運営理念を目につき易い玄関等に掲示し、職員の名札裏にも入れ、朝のミーティングで確認、共有しながら実践に繋げている。地域密着についても、同法人管理者会議で話し合い、職員に周知徹底している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎年畑で採れた野菜や果物を頂いたり、散歩でのあいさつや、スーパーでの買い物などで地域の方とのつながりを持っている。また、近所の喫茶店に出かけたりと地域の資源を大切にしている。	自治会の地域活動では、職員が年2回の掃除、利用者も空き缶拾いに参加するなど、可能な限り協力している。春祭りの子ども神輿が事業所を訪れ利用者も楽しんでいる。地域住民から野菜や果物の差し入れがあったり、散歩で挨拶するなど交流がある。	
3	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	行政、民生委員、他のグループホーム管理者等に出席していただき、町や地区の行事を教えて頂いたり、高齢化する地域住民の課題等意見交換をしている。また、事業所の活動取組みの報告も行っている。	運営推進会議には地域包括支援センター、民生委員、地域の他事業所管理者が参加している。家族参加がない為、便りと運営推進会議録を郵送し事業所の活動等を伝えている。町内の他事業所との合同運営推進会議も実施し意見交換をしながら、交流している。	
4	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	町の福祉課や広域連合と情報共有したり、困難事例の相談やケアのアドバイスを頂くこともある。また、会議や研修等へ参加し意見交換をする等協力関係を築いている。	福祉課や広域連合から、運営推進会議への参加がある。窓口にも出向き事業所の状況を報告し、相談や助言を得ている。福祉課や広域連合主催の会議や研修会、行事等に職員が参加するなど関係を築いている。	
5	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束適正化委員会を開催したり、職員全体研修で学びを深めている。身体拘束をしないケアを徹底している。職員全員で困難な事例を話し合い、身体拘束のないケアができています。	身体拘束適正化委員会は3カ月毎に開催している。年2回の研修や職員会議で困難事例について話し合い身体拘束をしないケアに取り組んでいる。グループホーム協会の事例集を活用して、話し合いながら予防に取り組んでいる。	
6	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	日常的に管理者は悩みや精神面等の相談など気軽に話し合えるよう、雰囲気作りに努めている。虐待防止委員会を開催したり職員全体研修を行い学ぶ機会を設けている。	虐待防止委員会は、3カ月毎に開催している。自己点検シートを活用しながら不適切なケアについて振り返り、虐待防止に取り組んでいる。ヒヤリハット報告書や介護記録の内容を職員間で共有し、利用者からの虐待サインを見逃さないよう努め、虐待予防、防止に努めている。	

岐阜県 グループホームぬくもりの家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者やケアマネージャーを中心に日常生活自立支援事業や成年後見制度について学んでいる。ご家族から相談された時に活用できるよう支援している。		
8		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は時間を十分にとり、丁寧に説明するようにしている。不安や疑問がなく理解して頂けるように説明し、質問疑問も解消できるようにしている。		
9	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や電話でご家族と話し合うことを大切にしている。ケアプランの意向書では要望、意見を記入していただきケアに活かしている。定期的に送るお便りは写真付きで分かりやすく日々の様子をお伝えして好評を得ている。	3カ月毎の「暮らしのお便り」に利用者の状態や暮らしぶりの分かる写真と文章を添え、運営推進会議議事録と共に家族に送付している。また、家族の面会時や電話で要望等を聴き、運営に反映させている。衣替えや補充用品を知らせたり、貸し出すなど細やかな対応をしている。	家族の世代交代もあり、事業所の運営や支援体制が伝わっていない場合がある。家族の意向を再確認した上で、事業所のサービスについて説明する機会を設け、理解を得ながら利用者支援への協力が得られるよう期待したい。
10	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表は毎月管理者会議を開催し、各事業所の相談や意見提案を聴き、運営に反映させている。また、職員の全体会議も毎月行い意見交換を行っている。様々な意見を取り入れながら皆が働きやすい環境となるよう努めている。	毎月開催する全体会議や管理者会議で、職員の意見や提案について話し合い、検討している。管理者会議は、同法人事業所の管理者と施設長等で毎月行い、各事業所の職員から出された相談・意見・提案などを検討し運営に反映させている。	
11	(9)	○就業環境の整備 代表者は、管理者及び職員個々の努力や実績、勤務状況を把握するとともに、職員が向上心を持って働けるよう、ワーク・ライフ・バランスに配慮した職場環境や就業条件の整備に努めている	幅広い年齢層の職員が働いているため、時間、希望休の配慮をしている。各自が責任と意欲を持って働けるよう実績に合わせ昇給がある。また、年間を通して研修計画を作り知識や技術の向上に努めている。	管理者は、職員の家庭事情、能力・資格、働き方への希望など、ワーク・ライフ・バランスに配慮しながら、希望休暇取得や業務調整を行なっている。資格取得支援や得意分野を活かした配置、業務分担も行なっている。休憩室の整備と休憩時間の確保も適切に行なっている。	
12	(10)	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者と管理者は職員一人ひとりの介護技術のレベルを把握し、法人内外での研修や資格取得の機会を推奨している。職員が家庭と仕事の両立ができるようコミュニケーションを図り、職員のレベルアップに取り組んでいる。	代表と管理者は、職員の経験年数や資格、能力や意向を把握し、教育プログラムに準じて研修や資格取得を勧めている。年間研修計画を職員に提示しサポートをしている。外部研修費用も法人が援助している。	

岐阜県 グループホームぬくもりの家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会づくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	職員が外部の研修会や勉強会に参加したり、入居時の訪問調査等で同業者と意見交換し、ケアの質の向上に努めている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
14		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	毎日の生活の中で職員との会話を通して信頼関係を築き、できることは行っていただいている。行事やレクなど共に過ごす中で笑い合える関係を築いている。		
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
15	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメントをとったり、日常的には利用者様の表情や会話の中からできることや好きなことを把握している。野菜の下ごしらえ、清掃、洗濯物たたみ等、一人ひとりのこれまでの生活歴と希望を活かしながら生きがいに繋げている。	利用者に意向や好みなどを聴きながら、ケアを行なっている。意向の伝達が困難な利用者には、これまでの関わりの中で得ている情報や語りかけた際の反応、元気だった頃の利用者の生活や好み・趣味など、家族から得た情報を職員が分析し対応している。	
16	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎日のケアの中で利用者様に対する変化や気づきを職員間で話し合い、改善に努めている。医師の指示をケアプランに反映させ、ご家族には説明、意向を伺い作成している。	介護計画検討会への参加を家族に案内しているが、参加が難しい家族が多い。家族や医師等からの情報を踏まえ、ケアマネジャー、職員が検討しながら、利用者の状態に応じた介護計画を作成し、家族に説明、承認を得ている。	
17	(13)	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の出来事を介護記録簿に記入し、モニタリングも行っている。体調管理表を付けたリ、ノートやホワイトボードを活用して職員間で情報共有がスムーズに行えるように工夫し、変化があれば迅速に対応できるように努めている。	介護計画を念頭に、介護の実践および介護記録簿に記入している。また、その日の気づき等も連絡ノートやホワイトボードを活用し、情報共有しながら、利用者個々に応じたケアに取り組んでいる。事故やヒヤリハット報告事項も介護記録に残している。	
18	(14)	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人やご家族のニーズに応えられるようにその都度検討し柔軟に対応できるように努めている。例えば、体を動かしたい利用者様に接骨院の先生によるリハビリ体操や訪問理容等ニーズに合わせて取り入れている。	同法人事業所と協働しながら、サービス向上に取り組んでいる。B型就労支援事業所とは、災害時避難や利用者交流などで協力している。接骨院の医師によるリハビリ体操、訪問理容院、ボランティアによる畑の管理など、様々な支援も取り入れている。	

岐阜県 グループホームぬくもりの家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	住み慣れた地域の資源であるスーパー、公園、コンビニエンスストア、喫茶店等を活用しながら、地域と共に生活している。		
20	(15)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者様の希望でかかりつけ医を決めている。ご家族の協力を得て地元のかかりつけ医を選択される方もいらっしゃる。当ホームのかかりつけ医は月2回の往診を行い、健康管理をしている。	利用者1名は従前のかかりつけ医に通院し、他は協力医の往診を月2回受けている。専門医への受診は、基本的には家族が付き添うが、家族が同行できない場合は職員が無料でサポートしている。今後、有料化や介護タクシーなどのサービスの紹介など検討していくとしている。	
21	(16)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時にはバイタルリンクを活用したり介護サマリーを提供し、安心して治療ができるようにしている。退院時にはカンファレンスに参加したり、協力医に相談したりと早期に受け入れができるよう努めている。	利用者の入院時には、サマリーとバイタルリンクにより申し送りをしている。退院前には退院時カンファレンスに管理者やケアマネージャー等が参加している。協力医や家族と話し合いながら、退院後の生活がスムーズに行えるよう準備している。	
22	(17)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	事前に指針を説明し理解を得ている。実際に重度化や終末期を迎えた時は、医師とともにご家族と話し合い、希望にそった最期を迎えられるようにチームで方向性を確認している。医師とは24時間体制で連携し取り組んでいる。	看取りケアの指針をもとに、家族や協力医と話し合い、利用者と家族の意向を確認、支援に取り組んでいる。看取りケア中及びその後にはエンドカンファレンスを行い、記録に残した上で職員のケアの質の向上に向け取り組んでいる。	
23		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故が起こりやすい食事、入浴時などを想定し、初期対応に備えている。消防署職員の方の指導のもと、心臓マッサージ、AEDを使用した訓練をし、実践力を身に付けている。		
24	(18)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回避難訓練を行っている。ハザードマップより土砂災害の可能性の確認をし、訓練を行っている。災害に備えた備蓄の準備もしている。町内にある同法人の事業所を活用して災害対策を強化している。	夜間の火災や地震を想定して年2回避難訓練を行っている。消防署協力の下、ハザードマップを確認しながら、法人の他事業所と協働で土砂災害訓練を実施している。避難経路の確認、備品・備蓄食などの確認を行っている。	各種災害に応じて、自治会や地域住民の協力内容をBCPに示し、協力体制を整えたい。また、地震発生時の家具転倒、引き出しや備品の散乱防止、避難経路の確保と持ち出し袋の準備等にも期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
25	(19)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの性格や習慣を大切にして、日常的なプライバシー(着替え、入浴、排泄時等)に気を付けている。利用者様に寄り添い、言葉使いは特に初心に戻って対応している。		
26		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で、自己決定を大切にしている。例えば、洋服を選ぶ、お茶の時間は好みの飲み物を選ぶ、活動への参加の有無など希望を聞いて支援している。		
27		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	共同生活であるが、決まり事を優先せずに利用者様が一日をどう過ごしたいかを大切にしている。散歩や体操、テレビを観ること、塗り絵、お話等、様子を見ながら見守っている。		
28	(20)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	1年を通して皆で畑を作り野菜を育てている。収穫から下ごしらえまで、手伝っていたり、盛り付けも工夫して楽しみのある食事を提供している。	利用者がボランティアと一緒に収穫した野菜や果物、近隣住民からの差し入れなど、旬の食材を活用し、職員手作りの食事を楽しんでいる。ホットプレートでの焼きそば作りや、ぬくもり喫茶モーニング、行事食など、利用者の好みを反映した食事を楽しんでいる。	
29		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日の水分摂取量を把握し、利用者様が脱水にならないよう、内容にも気をつけている。栄養バランスのとれた献立を作り、食べる量に合わせて盛り付けにも工夫している。		
30	(21)	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	義歯の状態は食事に大きく影響するため、不具合があれば協力歯科医に相談する等連携している。毎食後の口腔ケアは声かけし、できない方は支援を行い清潔維持に努めている。	利用者の状態に応じた方法で、毎食後に口腔ケアを行っている。義歯の不具合や治療の必要がある利用者は、協力歯科医師の定期検診や治療、義歯に関する相談などを受けている。	

岐阜県 グループホームぬくもりの家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	水分量と時間を見ながら声かけし、トイレ誘導によって失敗のないよう工夫している。入居時と変わらない排泄を維持できるように、職員皆で協力して支援している。		
32		○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	ご本人の体調や気分に合わせて曜日を変更、ご自身で入浴できる方は、お湯や室内の温度を設定した上で、安心して入浴できるよう見守りしている。		
33		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	静かな環境を作り、本人が安心して安眠できるよう努めている。個々の生活習慣に合わせて休息を取り入れ、身体に無理のないよう支援している。		
34	(22)	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	往診時には職員が立ち合い、薬の用途や量を理解している。服用時は必ず名前を確認して、誤薬を防いでいる。薬の副作用や変化があった時は必ず主治医に報告している。	薬は、薬局から名前と日付が書かれた状態で届く。担当職員が確認し薬剤をダブルチェックしてセットしている。薬剤の処方や変更時には職員が立ち会い、医師や薬剤師から説明を受けて伝達、全職員が薬剤の目的や副作用等について理解し、適切な服薬支援に努めている。	
35	(23)	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物たたみ等の家事仕事や、パズルや折り紙等の娯楽の楽しみ事を用意し、気分転換に喜びがある日々を過ごせるよう支援している。	利用者がやりたい家事作業を、職員も一緒に行えるようにしている。パズルや塗り絵など、利用者の好みに合わせたレクリエーションの開催、その事前準備作業なども、利用者の楽しみとなっている。	
36	(24)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節を感じられるように外へ出て花、木々を見て楽しんでいただけるようにしている。園庭やデッキを利用して、お茶やランチを楽しまれたり、畑を見に出られる方もいる。近隣の喫茶店に行く等が外出支援をしている。	全体会議で季節の花見や紅葉狩りなど、年間行事を計画している。園庭のさくらんぼやびわの実の収穫を楽しんだり、デッキでの食事やお茶会など、外気に触れながら気分転換できるよう取り組んでいる。家族には外出支援の協力を依頼している。	

岐阜県 グループホームぬくもりの家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人の希望等に応じて、お金の所持や買い物で使用できるよう支援をしている。また、ホームで「ぬくもり売店」を開き、買い物をする楽しさを支援している。		
38		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人の希望に応じて、ご家族へ電話をしたり、ハガキのやり取りができるよう支援している。		
39	(25)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	定時で換気を行い、間接照明や窓からの彩光を活かして、くつろぎの空間づくりに努めている。また、季節の花を飾りBGMを流して、居心地の良さを工夫している。	共用スペースは明るく、整理整頓されている。廊下から繋がる園庭の花木や、落ち着いた雰囲気のある家具にも、ぬくもりを感じながら、利用者が居心地よく過ごせる工夫がある。利用者は、キッチンでの調理の様子や料理の匂いを楽しみながら、食事時間を楽しみに待っている。	
40		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者様が気分によって庭のテラスで過ごされたり、フロアでテレビを観られたり、気の合った方と談話されたりできるようテーブルセットやソファを配置している。		
41		○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にはテーブルセット、ソファ、ベッド、タンスの備え付けがあり、ご本人と相談して配置をしている。ご自宅からお持ちになった品やご家族の写真は、常に目に入る場所に飾ることで安心できる室内空間を心がけている。		
42		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下と居室内に設置された手すりを使用して、安全に移動ができている。また、トイレや浴室には目印となるアイテムを取り付けたり、分かりやすい表示を工夫し、迷いの減少に努めている。		